

令和6年度 福島県立相馬農業高等学校 学校経営・運営ビジョンに関する意識調査（第2回） 分析

A: 当てはまる（そう思う） B: だいたい当てはまる（だいたいそう思う） C: あまり当てはまらない（あまりそう思わない） D: 当てはまらない（そう思わない） E: 無回答

意識調査No. 1		<教務部>	
	生徒	保護者	教員
	先生方はわかりやすい授業の工夫をしている。	-	あなたは授業の工夫改善に努めている。
結果	生徒	保護者	教員
原因及び反省	<p>○1回目と比較し、先生方の授業改善に対する意識が高まっている（A：24%→50%）。</p> <p>○生徒の98%が肯定的な解答をしている。</p> <p>○1回目の時期と比較し、生徒の実態が把握できて来たため、生徒に合わせて工夫ができたのではないかと推察される。</p>		
改善策	<p>○ICT講習会や授業力向上研修を通して、タブレットの活用方法や評価方法について情報共有を行い、引き続き授業改善に努める。</p> <p>○初任者研修や経験者研修での研究授業のほかに、互見授業等での取り組みの共有を行ってはどうか。</p> <p>○校外の各種研修への参加および報告を通し、新たな知見を共有する。</p>		

意識調査No. 2		<教務部>	
	生徒	保護者	教員
	学校は、基礎学力を高めるための取り組みを適切に行っている。	学校は、基礎学力を高めるための取り組みを適切に行っている。	学校は、基礎学力を高めるための取り組みを適切に行っている。
結果	生徒	保護者	教員
原因及び反省	<p>○生徒・保護者とも約90%以上が肯定的な回答をしている。先生方の日々の授業、スタディサプリの活用、放課後学習会、基礎固め教室など、それぞれの取り組みの成果であると考えられる。</p> <p>○教員のCの割合が増加している（C：2%→10%）。</p>		
改善策	<p>○朝の基礎学習において、取り組み状況が良くない生徒が固定化されている。</p> <p>○担任・副担任の指導に加え、教務も支援に入るなど、ログインできない生徒への対応や取り組み状況の良化に向け、引き続き粘り強く指導・支援をしていきたい。</p> <p>○取り組み状況の芳しくない生徒への支援の方策を検討する。</p>		

令和6年度 福島県立相馬農業高等学校 学校経営・運営ビジョンに関する意識調査（第2回） 分析

A: 当てはまる（そう思う） B: だいたい当てはまる（だいたいそう思う） C: あまり当てはまらない（あまりそう思わない） D: 当てはまらない（そう思わない） 無回答

意識調査No. 3		<教務部>	
	生徒	保護者	教員
	あなたは、定期考査などに向け、計画的に学習に取り組んでいる。	お子さんは、定期的に家庭で学習に取り組んでいる。	あなたは、定期考査などに向け、計画的に学習に取り組めるよう指導をしている。
結果	生徒	A, 27%	B, 49%
	保護者	A, 22%	B, 53%
	教員	A, 43%	B, 50%
原因及び反省	<p>○教員のA評価が増加した（A：22%→43%）。</p> <p>○教員の評価（A・B計93%）と生徒・保護者の評価（同75%）の乖離が見られる。先生方の指導が一部の生徒には伝わっていない、または、学校以外で学習に取り組む習慣がない生徒もいることが考えられる。</p> <p>○今年度、保護者からは「生徒から声をかけないとテストに関する内容の連絡がない」との意見もあったため、教員側の計画的な指示も重要である。</p>		
改善策	<p>○考査範囲やテストに関する内容の周知を、考査1～2週間前に掲示を含めて行う。</p> <p>○学習計画の立案方法をLHRで指導するなど、学習に関する自己調整力を身に付ける指導を行う。</p> <p>○定期考査に頼りすぎない評価方法の模索も検討の余地がある。</p>		

意識調査No. 4		<生徒指導部・保健部>	
	生徒	保護者	教員
	あなたは、遅刻・欠席・早退をしないように心がけている。	お子さんが遅刻・欠席・早退をしないように努めている。	生徒が遅刻・欠席・早退をしないように日頃から指導している。
結果	生徒	A, 59%	B, 32%
	保護者	A, 58%	B, 35%
	教員	A, 45%	B, 55%
原因及び反省	<p>○遅刻をする生徒は固定化されており、大半の生徒は遅刻をすることなく登校できている。</p> <p>○生徒のC評価が9%存在するので限りなく0%に近づけるように働きかける。</p>		
改善策	<p>○これまで通り、遅刻回数に応じた指導とともに、遅刻をした際に遅刻の原因等について振り替えさせる機会を設け地道に対応していく。</p>		

令和6年度 福島県立相馬農業高等学校 学校経営・運営ビジョンに関する意識調査（第2回） 分析

A: 当てはまる（そう思う） B: だいたい当てはまる（だいたいそう思う） C: あまり当てはまらない（あまりそう思わない） D: 当てはまらない（そう思わない） 無回答

意識調査No. 5		<生徒指導部>	
	生徒	保護者	教員
	あなたは、進路を見すえた服装・頭髪など、自らの身だしなみを整えている。	学校は、進路を見すえた服装・頭髪など、生徒自らが身だしなみを整えられる指導を適切に行っている。	学校は、進路を見すえた服装・頭髪など、生徒自らが身だしなみを整えられる指導を適切に行っている。
結果	生徒	A, 45%	B, 50% C, 4% D, 1%
	保護者	A, 47%	B, 49% C, 5%
	教員	A, 38%	B, 57% C, 5%
原因及び反省	○大半の生徒は校則に準じた服装頭髪を心がけているが、一部生徒において校則に準じない生徒が存在している現状がある。		
改善策	○生徒・保護者・教員におけるA・B比率が約95%に達している結果から定期的に服装頭髪検査を実施している成果が読み取れる。今後も定期的に服装頭髪検査を実施し、進路を見据えた服装頭髪が身につくよう指導していく。		

意識調査No. 6		<生徒指導部・農業部>	
	生徒	保護者	教員
	あなたは、部活動や農業クラブに積極的に参加して活動している。	お子さんは、部活動や農業クラブに積極的に参加して活動している。	あなたは、生徒が部活動や農業クラブに積極的に参加して活動するように指導している。
結果	生徒	A, 39%	B, 40% C, 17% D, 4%
	保護者	A, 49%	B, 32% C, 16% D, 3%
	教員	A, 43%	B, 43% C, 2% D, 2% E, 2%
原因及び反省	○1学年は入学時に部活動（運動部・文化部）に加入を義務付けてはいるが、年間を通して活動に参加している生徒は限られる。2年時に退部する生徒も一定数存在する。 ○農業クラブへの活動参加は学科により偏りはあるが大会に向けて、生徒が意欲的に取り組んでいることがうかがえる。		
改善策	○1学年の入部義務は継続しつつも、現在推進されている部活動の地域移行の進行度次第では、学校における運動部への加入は減ることが想定させれる。今後は、調査項目に地域スポーツクラブへの参加を加える必要がある。		

令和6年度 福島県立相馬農業高等学校 学校経営・運営ビジョンに関する意識調査（第2回） 分析

A: 当てはまる（そう思う） B: だいたい当てはまる（だいたいそう思う） C: あまり当てはまらない（あまりそう思わない） D: 当てはまらない（そう思わない） 無回答

意識調査No. 7		<生徒指導部・農業部>		
	生徒	保護者	教員	
	あなたは、伝統芸能継承活動に積極的に参加して活動している。	お子さんは、伝統芸能継承活動に積極的に参加して活動している。	あなたは、伝統芸能活動に積極的に参加して活動するように指導している。	
結果	生徒			
	保護者			
	教員			
原因及び反省	○大半の生徒は伝統を継承する重要性を理解し、師匠から伝えられた技術の向上に努めていたことが結果からうかがえる。			
改善策	○今後も本校において伝統芸能を継承する意義を伝えつつ積極的な参加を呼び掛けていくが、師匠の後継者問題が顕在化している。今後は伝統芸能の継承のため、地域と連携した対応が急がれる。			

意識調査No. 8		<生徒指導部・保健部>		
	生徒	保護者	教員	
	あなたは、高校生活をとおして以前より自信が持てるようになった。	お子さんは、高校生活をとおして、以前より自信を持つようになった。	あなたは、生徒が学校生活をとおして以前より自信が持てるような指導に努めている。	
結果	生徒			
	保護者			
	教員			
原因及び反省	○全カテゴリーにおいて90%近くはA・B評価をつけており、それなりに充実した高校生活を遅れていることがうかがえる。特に保護者のA・B割合は96%であり、高い数値である。			
改善策	○本校は中学校において不登校の状態である生徒が比較的多い。そのような生徒が高校入学を機に、登校状況が改善される事例は非常に多い。今後も全教員がきめ細やかな生徒対応を継続し、充実した高校生活の実現に貢献していく。			

令和6年度 福島県立相馬農業高等学校 学校経営・運営ビジョンに関する意識調査（第2回） 分析

A: 当てはまる（そう思う） B: だいたい当てはまる（だいたいそう思う） C: あまり当てはまらない（あまりそう思わない） D: 当てはまらない（そう思わない） 無回答

意識調査No. 9		<進路指導部>		
	生徒	保護者	教員	
	学校は、進路に関する情報を十分に提供している。	学校からの進路情報を参考に、お子さんと進路に関する話をしている。	学校は、進路に関する情報を生徒・保護者に十分に提供している。	
結果	生徒	A, 49%	B, 42%	C, 8% D, 0%
	保護者	A, 37%	B, 47%	C, 14% D, 2%
	教員	A, 29%	B, 64%	C, 5% E, 2%
原因及び反省	<p>○今年度は昨年度に比べて「進路だより」の発行回数が少なかった。</p> <p>○1回目に比べ、C・Dの生徒と保護者の割合が増えている原因として、家庭での保護者と子供とのコミュニケーションの時間が少なく、進路について会話する時間が確保されていない。そのため、家庭において進路情報を活用しきれていないことが考えられる。</p>			
改善策	<p>○「進路だより」は定期的（2ヶ月おき）に発行する。発行した「進路だより」はホームページにPDF化して掲載し、保護者に進路情報を提供する。</p> <p>○年度初めに保護者から進路について何を知りたいのかアンケートをとり、それをもとに情報を提供する。</p>			

意識調査No. 10		<進路指導部>		
	生徒	保護者	教員	
	あなたは、進路行事をとおして、進路についてより深く考えるようになった。	進路行事をとおして、お子さんと進路について話す機会が増えた。	生徒は、進路行事をとおして、進路についてより深く考えるようになった。	
結果	生徒	A, 45%	B, 42%	C, 12% D, 0% E, 0%
	保護者	A, 36%	B, 46%	C, 18% D, 0%
	教員	A, 31%	B, 62%	C, 5% D, 0% E, 2%
原因及び反省	<p>○保護者のみC・Dの割合が1回目より多くなっている。No.9でC・Dを答えた保護者も含まれると思われる。</p> <p>No.9同様に家庭において子供と会話がなく、進路行事の内容を理解していないことが原因と思われる。</p>			
改善策	<p>○学校において家庭への情報提供事務を簡素化する。</p> <p>○家庭で話し合いを促すアプローチをする。</p> <p>○本アンケートの保護者向け質問事項を検討する。</p> <p>「進路行事」→「三者面談や学校行事」、「進路について」→「将来について」</p>			

令和6年度 福島県立相馬農業高等学校 学校経営・運営ビジョンに関する意識調査（第2回） 分析

A: 当てはまる（そう思う） B: だいたい当てはまる（だいたいそう思う） C: あまり当てはまらない（あまりそう思わない） D: 当てはまらない（そう思わない） 無回答

意識調査No. 11		＜保健部・総務部・農業部＞	
	生徒	保護者	教員
	学校は、安全な学習環境づくりに取り組んでいる。	学校は、安全な学習環境づくりに取り組んでいる。	あなたは、安全な学習環境づくりの指導に努めている。
結果	生徒		
	保護者		
	教員		
原因及び反省	<p>○学校を安全な場所と捉えていただいているが、そうではないと考えている方も一定数（数%）いる。 ○「安全な学習環境」の安全とは、生活安全、災害安全、交通安全などが考えられる。生徒・保護者がどのように捉えているかを知る必要がある。 ○特別な支援を必要とする生徒に対する対応などの研修会は実施している。 ○「いじめ」に対する対応も適切に行っている。 ○特別教室のエアコンについては、引き続き、県に要望していく必要がある。 ○今年度実施した救急救命講習などは教員には3年に一度は受講してもらう必要がある。</p>		
改善策	<p>○次年度以降、実際に地震等の大規模災害や不審者侵入等が実際に起こったときに備えて対応マニュアルをもとに訓練を実施しておく必要がある。 ○交通安全の観点から、自転車事故に備え、ヘルメットの着用率を上げるための方策を考えていく必要がある。そのためには、保護者との連携が大切となる。</p>		

意識調査No. 12		＜総務部・農業部＞	
	生徒	保護者	教員
	学校は、ホームページ掲載やメール配信などの情報発信に努めている。	学校は、ホームページ掲載やメール配信などの情報発信に努めている。	あなたは、ホームページ掲載に努め、メール配信を活用している。
結果	生徒		
	保護者		
	教員		
原因及び反省	<p>○生徒・保護者はホームページ等を見てくれている。各部署でより多くの情報を掲載する必要がある。 ○教員のAの割合が低いのは、ホームページの掲載の仕方がわからないやメール配信を送信できる教員に限られていることが考えられる。次年度は質問の検討が必要である。</p>		
改善策	<p>○ホームページの掲載数を増やすためには、特定の教員が掲載するのではなく、各部・各教科・各学年で行事ばかりではなく、日々の授業風景など学校で起こった出来事を、簡単なコメント・写真の組み合わせで掲載する。また、各担当で2ヶ月に1回程度を目標に、年間100掲載を目標とする。 ○topicには行事ばかりでなく、お便りなどのお知らせも掲載する。 ○保護者に直接お便りが届くように、保護者のメールアドレスの登録をしてもらう。このことで、欠席連絡などにも利用できる。</p>		